

旧海軍の遺跡と警固屋の名所・旧蹟

遺跡 案内

1 殉国之塔



警固屋1丁目
鍋山第1公園内

昭和20年(1945)6月22日、呉海軍工廠がアメリカ爆撃機B29約290機により空爆された。このとき犠牲になった女子挺身隊員等476名を悼むため建立された慰霊碑。

2 「青葉」終焉之地記念碑



警固屋5丁目

この地に重巡洋艦青葉が防空砲台として繋留されていたが、昭和20年(1945)7月にアメリカ爆撃機の攻撃を受け大破着底した。

3 休石砲台跡



音戸の瀬戸公園内
常楽園後方山腹

9センチ速射加農砲2門を装備していた小さな砲台の跡。砲台のほか弾薬庫の一部と門柱が現存している。

4 高烏堡壘跡



音戸の瀬戸公園
頂上

標高218mの高烏山に設置された砲台の跡。28センチ榴弾砲6門を備えていたが、現在は砲台、弾薬庫の一部が残るのみとなっている。周囲には展望台のほか、平清盛公日招像、日招岩などもある。



名所・旧蹟 案内

1 孝子の墓

(的場2丁目)

継母に孝養を尽くし他の模範となったため、天明4年(1784)から文化2年(1805)までの間に5回も広島藩主から賞された中屋半右衛門と妻さわの墓である。

2 鍋観音と五輪石

(的場3丁目)

鍋観音の謂れは古く、胴体が平安時代、頭部は室町時代の作とされている。また、五輪石は中世の海賊衆の墳墓といわれている。

3 薬師堂

(的場3丁目)

文化11年(1814)の文化度国郡誌にて薬師堂の存在が確認されている。仏像の由来は不明であるが、正徳3年(1713)に製作されたものとされている。

4 鍋小島と一石一字塔(法ヶ崎)

(警固屋2丁目)

安永6年(1777)8月、鍋小島に海難防止と犠牲者の冥福を祈るため、海運業を手がけていたとされる小方太左衛門宣秀が建立した。島周囲の海面は埋め立てられたものの、小島と塔は現在も当時の姿を残している。

5 玉昇館跡

(警固屋4丁目)

明治31年(1898)に竹の鼻説教所(現法正寺)より古郷(現宇佐神社前上段遊園地)に移転した。

6 公会堂跡

(警固屋4丁目)

元鍋小学校運動場に総工費8,000円の寄付を町民に頼り、昭和9年の竣工落成から昭和40年の解体まで使用された。

7 普蔵生家跡

(的場5丁目)

8 尾崎の敵五輪石

(警固屋1丁目)

中世の海賊衆(海の警固武士)として活躍した警固屋氏のもとで、活躍した海民たちの墳墓ではないかと思われる。

9 平家落人屋敷と五輪石

(警固屋6丁目)

三本松に平家の屋敷跡や五輪塔の内四輪が一基だけ今も島の中に残っている。

10 日招岩

(警固屋6丁目)

厳島神社の女神と交わした日に間に合わせようと沈みかける日輪に「返せたまえ、戻せたまえ」と叫び続け、瀬戸開削工事を完成させた。

11 堀城(モウ城)跡

(警固屋5丁目)

組織化された警固衆は海の武士として、堀城と小浜山城より海を監視し、堀城の下はすぐ海で数艘の船を待機させていた。

12 小浜山城跡

(警固屋8丁目)

室町時代(1338~1573年)に呉衆(水軍)に属し、本拠地である警固屋を名字とした「警固屋氏」の居城跡。警固屋氏は大内氏の配下となって海上航行者から警固料を徴収したほか、大内軍の合戦にも参加していた。

13 六地藏

(警固屋8丁目)

亡くなった肉親の苦しみを取り除くため、警固屋地区の火葬場に祀られていた六地藏像を移設したもの。

14 五輪塔

(警固屋8丁目)

15 日招像(高烏台)

(高烏台)

音戸の瀬戸開削工事を指揮した平清盛公が、沈む太陽を招き返して難事業を完成させたという古来の伝説に基づいて建立した像。

16 立石河内千軒跡地

(警固屋8丁目)

平清盛公が音戸の瀬戸を開削する際、警固の武士や工事に従事した人夫や、その家族が居住した集落と呼ばれている。

17 林山小学校跡地校門

(見晴2丁目)

明治24年に創立し翌年には廃校となるが、明治27年に再び開講した。明治44年鳥ヶ平に移設した現在も石柱の校門が残っている。

18 庄屋屋敷跡

(見晴3丁目)

村を統治する最高の責任者で、給米6~10石をもらっていた。

19 長迫観音

(警固屋9丁目)

創建年月は不明だが、昔から地元住民の信仰があり、昭和57年(1982)に観音堂を再建した。

注 ■ 呉工廠防空壕跡を示す